LOGTORY Lite
ユーザーズガイド

1. はじめに 1
2. 動作環境 2
3. 概要 3
4. 使用方法 4
4-1. 手順1 プリンターの登録 5
4-2. 手順2 環境設定 6
4-2-1. 環境設定 – CSV 出力項目 6
4-2-2. 環境設定 – 動作オプション 7
4-2-3. 環境設定 – リポジトリ 8
4-3. 手順3 出力ファイル設定 9
4-4. 手順4 ログ取得開始 9
4-5. 手順5 取得済みログの再出力 10
5. 付録 11
5-1. コマンドラインツール 11

1. はじめに

「LOGTORY Lite」は、ネットワークに接続された SPEEDIA プリンターの印刷ログ収集を行うためのツールです。
SPEEDIA プリンターが収集済みの印刷ログ情報を CSV 形式で出力します。

本マニュアルの記載について

(1) 本ソフトウェアおよび、マニュアル(以下、単にソフトウェア)の著作権は、カシオ計算機株式会社およびカシオ電子工業株式会社の所有です。
(2) 本ソフトウェアの一部または、全部を無断で使用、複製することは禁止されています。
(3) 本ソフトウェアの仕様ならびに、記載内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(4) 本ソフトウェアの内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
また、本ソフトウェアを運用した結果の影響につきましては、これにかかわらず一切の責任を負いかねます。
ご了承ください。
(5) 本書中の画像は、Windows 7における画像です。ご利用いただく環境によって、実際の画面表示と本マニュアル中の画面の図とで差異が見られる場合があります。
(6) Microsoft、Windows、Windows Server、Windows VistaおよびExcelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他記載された会社名および製品名等は、該当する各社の登録商標または商標です。
(7) 本文中またはソフトウェア上の記載には、必ずしも商標表示(®,™ マーク)を付記していません。

2. 動作環境

●対応オペレーティングシステム

Microsoft Windows 7
Microsoft Windows 8（8.1）
Microsoft Windows 10
Microsoft Windows Server 2008
Microsoft Windows Server 2008 R2
Microsoft Windows Server 2012
Microsoft Windows Server 2012 R2

●対象プリンター
※印刷ログを記録するために、オプション SSD/HDD の装着が必要です。

CASIO SPEEDIA GE5000 series
CASIO SPEEDIA GE5500 series
CASIO SPEEDIA GE6000 series

3. 概要

SPEEDIA プリンターは、印刷情報の一部を記録した印刷ログを SSD/HDD に記録します。
本ソフトウェアを使用すると、SPEEDIA プリンターが記録しているログ情報を取り出して、CSV(Comma Separated Values:カンマ区切り)形式のファイルに保存します。
この情報から、有効な値を取り出して活用することができます。

例えば、
- 月々の印刷枚数など、利用状況を管理することができます。
- 印刷時刻などの情報から、プリンターが利用される時間などの傾向を把握できます。
- 両面や、マルチページなど、用紙を節約する利用法が活用されているかどうか、確認できます。

4. 使用方法

CPSPLGUX.EXE を実行すると、以下の画面が表示されます。

手順1　プリンターの登録

印刷ログを取得するプリンターの登録を行います。

手順2　環境設定

個別の設定を行う場合には、環境設定を行います。

手順3　出力ファイル設定

印刷ログを保存する出力ファイル名を指定します。

手順4　ログ取得開始

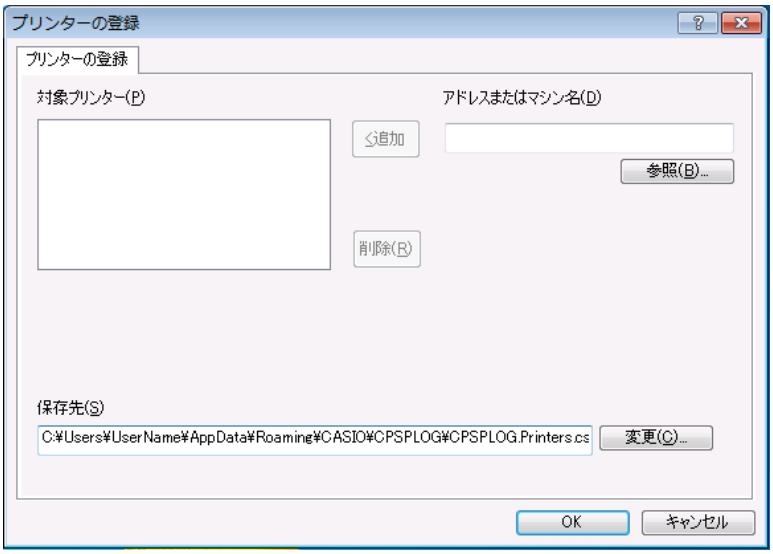
印刷ログを取得開始します。
プリンターとの接続、印刷ログデータのダウンロードを行い、CSV ファイルを作成します。

手順5　取得済みログの再出力

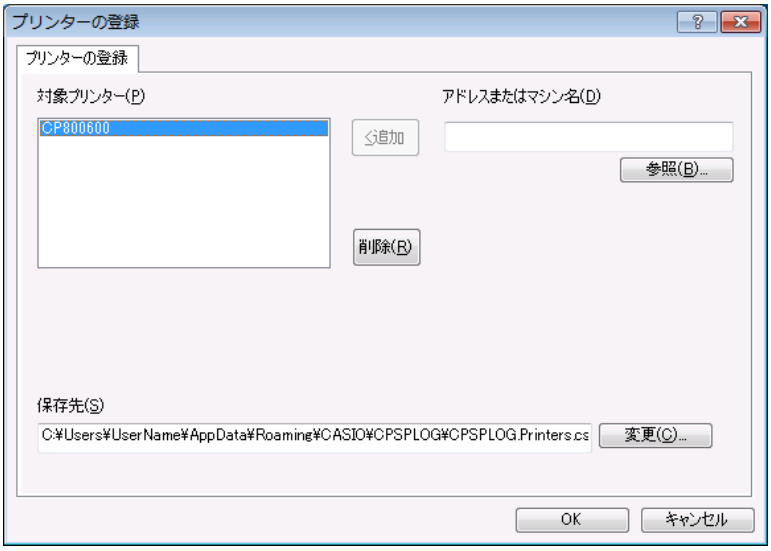
必要に応じて、リポジトリに取得済みの印刷ログデータから再度 CSV ファイルを再取得します。
環境設定で出力項目を変更した場合など、CSV ファイルを再度作成する場合には、再出力を行います。

4-1. 手順１　プリンターの登録

プリンターの登録ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



「アドレスまたはマシン名」の欄に、印刷ログを取り出すプリンターの IP アドレスあるいはマシン名（ホスト名）を入力し、追加ボタンをクリックすることで、下図のように、対象プリンターに登録します。
複数のプリンターを登録する場合、「アドレスまたはマシン名」に新たな値を入力し、追加ボタンをクリックしてください。



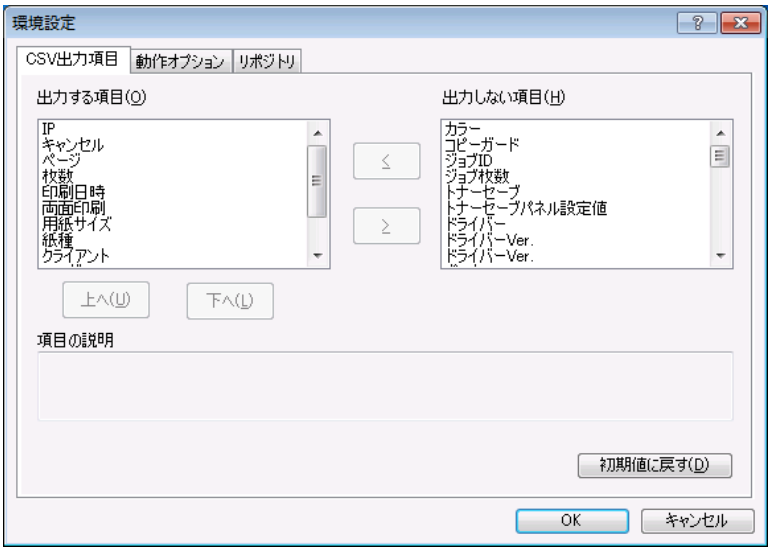
OK ボタンで画面を閉じると、印刷ログを取得するプリンターが決定されます。

【その他の画面項目】

参照ボタン	クリックすると、プリンターの設定画面が開きます。インストール済みのプリンターを選択してアドレスマシン名を取得することができます。
削除ボタン	対象プリンター項目から不要になったアドレスまたはマシン名を削除します。
保存先	登録したプリンターのリストを保存しておくファイルの名前です。

4-2. 手順２　環境設定

環境設定ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



「CSV 出力項目」「動作オプション」「リポジトリ」の各タブがあります。
それぞれ、以下の設定をします。

CSV 出力項目	CSV ファイルに出力する印刷ログの項目を設定します。
動作オプション	CSV ファイルへの出力方法やプリンターとの通信方法などのオプションを設定します。
リポジトリ	プリンター印刷ログデータを保存しておくフォルダーを設定します。

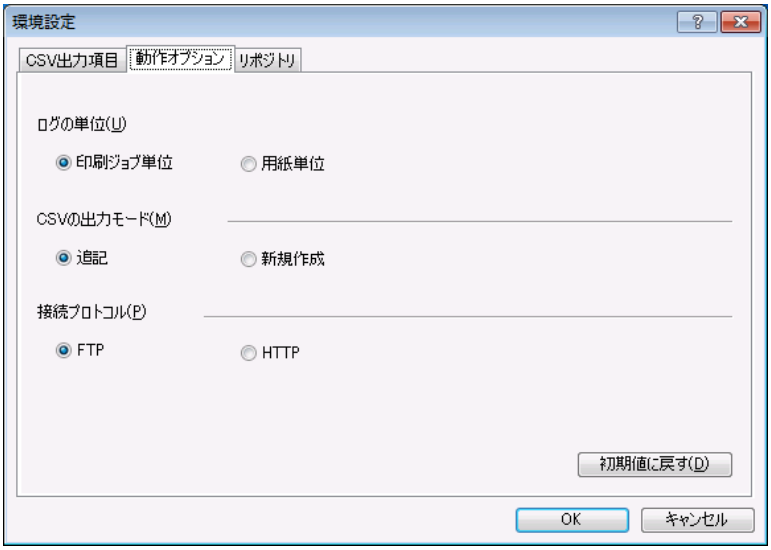
4-2-1. 環境設定 －CSV 出力項目

CSV 出力項目タブは CSV ファイルに出力する印刷ログの項目を設定する画面です。
CSV ファイルに出力する項目を「出力する項目」リストに設定します。
「出力しない項目」から「出力する項目」に項目を移動するには、「出力しない項目」から項目を選択して「＜」ボタンをクリックします。
不要な項目は「出力する項目」から不要な項目を選択し、「＞」ボタンをクリックして「出力しない項目」に移動します。

【その他の画面項目】

上へ	「出力する項目」の項目順を並び替えます。選択した項目が上(先方に出力)になります。
下へ	「出力する項目」の項目順を並び替えます。選択した項目が下(後方に出力)になります。
項目の説明	「出力する項目」「出力しない項目」で選択した項目の説明を表示します。
初期値に戻す	CSV 出力項目タブの設定を初期値の状態にします。

4-2-2. 環境設定 – 動作オプション



動作オプションタブは CSV ファイルへの出力方法やプリンターとの通信方法などのオプションを設定する画面です。

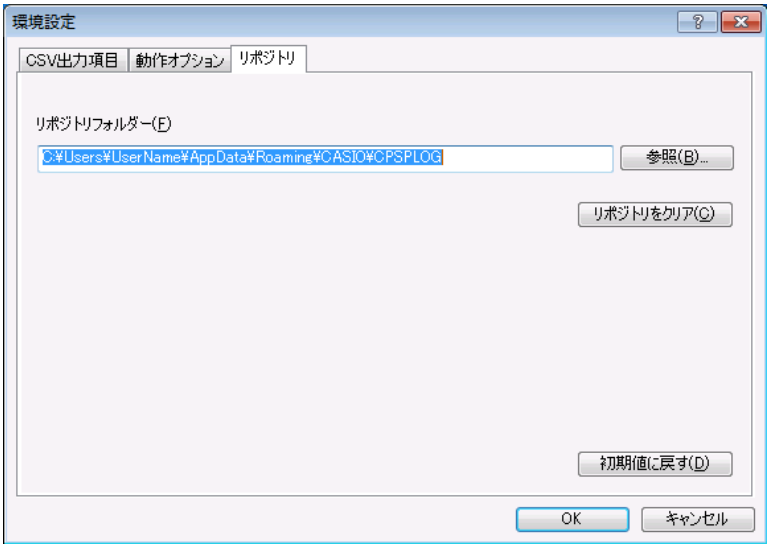
既定では CSV ファイルに保存する単位は、印刷ジョブの単位で1レコードに記録する「印刷ジョブ単位」です。
また、CSV ファイルに保存する内容は、既にリポジトリに取得済みのプリンター印刷ログデータを除いた、新たに取得した分だけをファイルに追記する「追記」モードとなっています。

これらの動作を変更するには、「ログの単位」「CSV の出力モード」の値を変更します。

【その他の画面項目】

用紙単位	CSV ファイルに保存する単位を、用紙単位で1レコードとします。
新規作成	CSVファイルに出力するモードを、リポジトリのファイルを含む全プリンター印刷ログデータから、新たな CSV ファイルに保存するモードとします。このモードでは既にファイルがある場合、ファイルの内容が上書きされます。
接続プロトコル	プリンターの印刷ログデータを取得するためのプロトコルを設定します。 ※HTTP の接続プロトコルは、対応するプリンター(GE6000 Ver.1.17 以降)が必要です。
初期値に戻す	動作オプションタブの設定を初期値の状態にします。

4-2-3. 環境設定 – リポジトリ



リポジトリタブはプリンター印刷ログデータを保存しておくフォルダーを設定する画面です。

CSV ファイルに出力するためのプリンター印刷ログデータは、一旦プリンターからコンピューターにダウンロードして保管しておきます。これらのファイルを保存しておくフォルダーを「リポジトリ」と呼びます。
既定では、コンピューターのアプリケーションデータ用フォルダーに保存しますが、これを変更する場合には、リポジトリフォルダーの値を変更します。

【その他の画面項目】

参照ボタン	リポジトリフォルダーを指定するために、コンピューターのフォルダーを選択する画面を表示します。
リポジトリをクリア	現在リポジトリフォルダーに設定されているファイルを削除します。 フォルダー単位で削除を行いますのでご注意ください。
初期値に戻す	リポジトリタブの設定を初期値の状態にします。

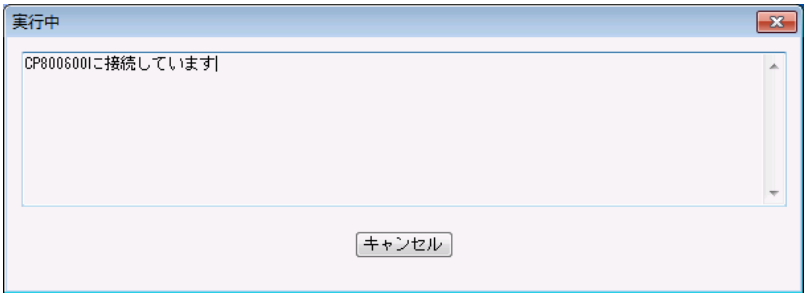
4-3. 手順３　出力ファイル設定

印刷ログを保存する出力ファイル名を指定します。

「ログ取得開始」「取得済みログの再出力」をクリックしたときに保存されるCSVファイルは、「出力ファイル」の項目に指定されているファイル名で保存されます。
変更ボタンをクリックすると、ファイルを選択する画面が開きます。既存のファイルを選択するか、新しいファイル名を指定してください。

4-4. 手順４　ログ取得開始

印刷ログを取得開始します。
「ログ取得開始」ボタンをクリックすると、現在の処理状況をレポートする、以下の画面が表示されます。
プリンターとの接続がエラーになった場合などにも、ここに結果が表示されますのでご確認ください。



以下の手順を「プリンターの登録」で登録したプリンターごとに繰り返して処理します。

- プリンターへの接続
- プリンターの印刷ログデータの更新状況の確認
- プリンターの印刷ログデータの更新分をダウンロード
- ダウンロードした印刷ログデータから CSV ファイルを出力

【その他の画面項目】

キャンセルボタン	印刷ログの取得、CSV ファイルの出力が終了すると、閉じるボタンに変わります。 処理中にキャンセルボタンをクリックすると処理を中断して、処理を中止します。 ※　プリンター印刷ログデータのダウンロード中や、CSV ファイルの処理中にキャンセルを行うと、リポジトリの取得状態と CSV ファイルの出力内容が不一致になることがあります。 この場合、CSV ファイル上の印刷ログはデータの不足が発生することになるため、「取得済みログの再出力」を行って、CSV ファイルの更新を行ってください。

4-5. 手順５　取得済みログの再出力

環境設定で出力項目を変更した場合など、出力ファイルを再度作成する場合には、再出力を行います。

「取得済みログの再出力」ボタンをクリックすると、以下の手順を「プリンターの登録」で登録したプリンターごとに繰り返して処理します。

・　リポジトリにダウンロード済みの印刷ログデータから CSV ファイルを出力

5. 付録

5-1. コマンドラインツール

LOGTORY Lite の機能は、コマンドプロンプトから実行することが出来ます。

CPSPLOG.EXE は、コマンドライン用の実行ファイルです。
指定の IP アドレスまたは IP アドレスのリストで指定されたプリンターから印刷ログを取得して、CSV 形式でファイル出力します。
以下の書式でパラメーターを指定してください。
（※以下説明中にある既定の値は、初期値です。ウィンドウ画面(CPSPLGUX.EXE)の環境設定などで変更を加えた場合には、変更された値が適用されます。）

CPSPLOG.EXE IP アドレス /L"出力ファイル" [オプション]
CPSPLOG.EXE /F"アドレスリストファイル" /L"出力ファイル" [オプション]
CPSPLOG.EXE /Repository /L"出力ファイル" [オプション]

IP アドレス　　：IP アドレスまたはマシン名を指定します。
/F" アドレスリストファイル"
　　：IP アドレスのリストファイルを指定します。
/Repository　　：取得済みのログファイルからファイルを出力します。
/L" 出力ファイル"　：出力ファイル名を指定します。
　　既存ファイルの場合は追記します。

オプション
/Create　　：取得済みログレコードも含めて再出力します。
　　（既定では新規に取得したレコードのみを出力します。）
/PaperLog　　：用紙１枚単位のレコードを出力します。
　　（既定では文書単位のレコードを出力します。）
/Folder"RepositoryFolder"
　　：取得済みログファイルの保管フォルダーを指定します。
　　（既定では%APPDATA%¥CASIO¥CPSPLOG¥Download
　　を使用します。）
/Init　　：取得済みログファイルを削除して再取得します。
/http　　：プリンターとの接続、ログ取得を http で行います。
　　（既定では ftp を使用します。）

既定の動作では、一度プリンターから取得した印刷ログはリポジトリに保管し、次回からは新たにプリンターから取得した印刷ログのみを出力ファイルに追記出力します。
プリンターから更新ファイルを取得し、リポジトリに保管した印刷ログも含めて出力するには、/Create オプションを使用してください。
リポジトリに保管した取得済みの印刷ログだけを再出力するには、/Repository オプションを使用してください。

※1 IP アドレスのリストファイルは、単一または複数の IP アドレスが記述されたテキストファイルです。
　各 IP アドレスを改行で区切って指定してください。

LOGTORY Lite

ユーザーズガイド

平成28年05月25日　第3版